

令和七年度一般選抜入学試験（前期日程） 国語（教育学部） 解答例

- 問一 ㉠ 磨 (ア) 均衡 (イ) 愚鈍 (ウ) 温床 (エ) 回避

問二 本能は群れの能力であり、個々の身体を群れに与えられた唯一の道具として動かす。一方、知性は個体の能力であり、その個体は身体の外に道具を作り出し、それを操る主人になろうとする。知恵は知性のなかに含まれ、道具の使用において知性から育ち、働く。（二一八字）

問三 物の性質に入り込み、その性質と共生して、道具の使用によって可能となるような知恵を育てること。（四六字）

問四 倫理学は、「人と人の間」を生きる知恵が必要とする秩序の理論的把握をしようとするが、その知恵は、〈物の学習〉における、物の性質に入り込み、その性質と共生して進む知恵とまったく別ものであるはずがない。（九八字）

問五 熟練の料理人は、修行によって身につけた巧みな包丁さばきによって、抵抗物である食材の性質を知り、それを受けとめながら格別の料理をつくりあげることができる。（二五字）

問六 物を離れて純粹に記号を操作できる知性を伸ばすこと。（二五字）

問七 道具を使う知性は、〈物の学習〉と〈記号の学習〉を極める方向に進むが、〈記号の学習〉が物を離れていくのに対して、〈物の学習〉は物の性質に入り込み、それと共生して進むものである。（八七字）

- 問一 ㉠ (a) 意志の助動詞「む」「ん」連体形 (b) 完了の助動詞「り」連体形

問二 (ア) 姫君

(イ) 半者

(ウ) 女房たち

問三 A 思い悩むこともなく、中の君や三の君とご一緒して、この景色をお二人にお見せしたいものだ。

C 父上様を始め、皆様にお目にかかることは難しい状況でございますので

問四 なじみのない土地に隠れて住む現在の境遇への悲嘆や、今後の成り行きに対する不安。

問五 三の君が、中將が泣いているのは妻である自分の悲しみに同情してくれているからだと考えていることについて述べられている。(五八字)

問一 三

(a) いはゆる

(b) それ

問二 (ア) さはにくだればすなはち

(ウ) すなはちかくのごときものなり

問三 訓読

これあづからず(あづからざるなり)

現代語訳 山に行つて虎を見、沢に下つて蛇を見たことと、国の三つの不吉なことは、関係がありません。

問四 賢人がいてもその存在に気付かないこと、存在を知つても採用しないこと、採用しても仕事をさせないこと。(四九字)

問五 虎のすみかに行き、蛇の穴に行つて虎や蛇を見たことが、どうして不吉なことになるだろうか、いやならない。